

大相撲名古屋場所観戦日記
尾張名古屋は綱で持ち 一見落着

●今場所の見所

場所が始まる前に、番付を見ながら今場所注目すべきところを考えて見た。

一番目は「照ノ富士の去就」、二番目は「大関は誰が生き残るか」、三番目は「混迷から抜け出すのは誰か」
照ノ富士は、この場所が最後の場所になるのか、それとも優勝して面子を保つのか。よしんば優勝したにせよ、横綱の特権を利用して「休場と優勝の繰り返し」がどこまで認められるのか。

霧島が大関から陥落して、今場所10勝をあげて復帰できるか、ということにはばかりに目が向けられているが、次に陥落するのは誰か、そしてこの「負け越し→10勝の繰り返し」が称えられるべきことなのか。

混迷の状況から脱する引金は大の里ではないかと衆目は一致しているようだが、誰かがこれを止めるのか。止められることによって「真に強い大の里」を創ることになるのだろうか。

●初日の印象

前半戦は淡々と進んでいる感じで、輝きを感じる場面は少なかった。そんな中で美ノ海・欧勝馬の相撲が光っていた。後半戦に入ってからはず良の善戦と豪ノ山の力強い相撲が印象に残った。

関脇に下がった霧島は、腰の位置が決まった安定した動きで難敵高安を下して、復調を感じさせた。

新関脇となった大の里は御嶽海に一方的な相撲で土俵外へ運び出されて敗退。大の里の得意パターンである右を差し込んで突っ走る相撲を封じるべく、御嶽海は左を固めて右でおっつけて前進する相撲をとった。大の里は腰高のまま、何もすることはできず後退して土俵を割った。大の里の相撲は先輩力士達に研究されている。

三人の大関は善戦するところまで行かぬ内に敗戦し、やはり、もしかして……の思いが頭をよぎった。

照ノ富士は平戸海に勝ちしたが、腰高のまま相手の腕を抱え込んで強引に運ぶ相撲で、腰と膝に余裕は感じられなかった。平戸海は差し手を深くしすぎたために、照ノ富士に抱え込まれた。前禪をとって頭を付ければ充分に勝機はあった。横綱は、筋肉の張りのない弛んだ体で、15日間をしのげる体調とは思えなかった。

●二日目

若隆景・美ノ海・玉鷲・欧勝馬の相撲が、巧さと力強さの両面から見て評価できる内容だった。

新関脇大の里は若元春の力強い速攻相撲に何もできずに敗退。

大方の予想に反して、横綱・大関は全員白星となったが、琴櫻・貴景勝は危うく星を拾ったような勝ち方で、まだ安心できる内容ではなかった。

●三日目

若隆景・朝乃山・琴勝峰の相撲が良かった。やはり、きちんとした相撲には強さとともに美しさがある。

大の里は大栄翔に前進圧力をかけたあとで叩き込んで初日を出したが、腰が高く前傾姿勢もとれてはいなかった。

霧島は、力強く突進してくる豪ノ山をうまくさばき上手投げで仕留めた。滑らかな動きが感じられた。

大関陣は、琴櫻・豊昇龍は勝って2勝1敗になったが、貴景勝は熱海富士の猛攻に屈して尻からドスンと落ちる負け方で、先行きに暗雲が立ちこめて来た。

横綱照ノ富士は自分のペースを取り戻した感じの勝ち方だったが、腰高で相手を引っ張り込んでから抱え込んで前進するという相撲で若元春を破ったが、強さよりも乱暴さを感じるような取り口だった。

●四日目

序盤の取組の中では、若隆景の相撲が光っていた。ここまで良い動きをしていた朝乃山が一山本に敗れたのは意外だった。しかも左膝ががっくり崩れるような倒れ方で、土俵から下りることもできず車椅子で退場した。

玉鷲が力溢れる相撲で3勝1敗としているのは無気味な感じがする。

大の里は平戸海の注文相撲にはまって突き落とされて1勝3敗になった。腰高のまま上半身だけが前傾したの

を相手に読み取られたような感じだった。

大関は今日も白星を並べることはできなかった。貴景勝は翔猿の動きに付いていくことができず、後ろ向きにされて送り出されて3敗目。豊昇龍は豪ノ山の一直線の猛攻に何もできずに土俵を割り2敗に後退したが、琴櫻は若元春を退けて1敗を堅持した。

そんな中で照ノ富士はリズムを掴んできた様子で、御嶽海を軽く寄り切ったただ一人の全勝力士となった。

●五日目(序盤終了)

今日も序盤の取組の中では若隆景の美しさえ感じるような取り口が目立った。

朝乃山の怪我はやはり重症だった。左膝十字靭帯断裂と側靭帯損傷で休場と発表された。

玉鷲は今場所も力強い若々しい相撲で序盤を1敗で終えたが、同じ1敗の欧勝馬・湘南乃海は流れの中で勝ちを拾ったような勝ち方で、どちらが若手かわからないような内容だった。

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
5勝	照ノ富士				
4勝1敗					翔猿・湘南乃海・欧勝馬・玉鷲・若隆景

照ノ富士はいつの間にか勝ちパターンを確立してしまっただよ、ただ一人無敗で序盤を終えた。後を追う1敗は平幕力士が5人という状態

で、今場所も5日目にしてため息が出る状態になった。

●六日目

若隆景が輝のスピードのある前進相撲にあっけなく敗れてしまい、昨日までの若隆景への評価は逆転。

見所のある取組は少なく、淡々と取組が進んで行くという感じの日だった。

終って見れば平幕の1敗の5力士は全員敗れて、照ノ富士がニ差で単独先頭を走る形になってしまった。

●七日目

若隆景は腰の下りた安定した取り口で錦富士を寄り切り、昨日の敗戦を引きずることはなかったようだ。

美ノ海・琴勝峰が良い動きをしていたのと、豪ノ山・明生が負けはしたが内容のある相撲をとっていたのが記憶に残った。貴景勝は平戸海に、豊昇龍は霧島に敗れ、大関で2敗を維持したのは琴櫻だけだった。

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
7勝	照ノ富士				
6勝1敗					
5勝2敗		琴櫻		大栄翔	湘南乃海・琴勝峰・正代・美ノ海・若隆景

平戸海の相撲は理詰めで元気が良く素晴らしかったが、それ以上に貴景勝の足腰が駄目な感じだった。結びの一番、照ノ富士に挑む宇良に多くの相撲ファン

が期待を寄せた。宇良は縦横無尽の動きで横綱を攪乱したが、最後は捕まえられてしまった。会場の盛り上がりは今場所最高だったかもしれない。

●八日目(中日)

美ノ海は今日も、脇の締まった身のこなしで素晴らしい取り口だった。

この他に目立った相撲を見せたのは、若元春を破った熱海富士と明生を破った平戸海。

そして横綱・大関が全員勝ったという珍しい日になった。2敗同士の取組もあり、役力士同士の取組もありで、

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
8勝	照ノ富士				
7勝1敗					
6勝2敗		琴櫻			正代・美ノ海

2敗力士は大関琴櫻を含めて三力士になってしまった。

照ノ富士の独走を止めるのは誰だろう、可能性のある力士は数少ないのが現実。照ノ富士が強いわけではないのに……。

●九日目(さて後半戦)

美ノ海・遠藤・若隆景・翠富士あたりが、きちんとした相撲を取っていて気持ち良かった。

照ノ富士は突き押しで攻めてくる大栄翔をつかまえて、上手出し投げで転がして9連勝で独走を継続。

後を追う2敗は琴櫻と美ノ海の二力士だけになってしまった。

●十日目

遠藤と今場所好調な美ノ海の対決は興味深い取組だった。構えの低さで勝る遠藤に凱歌が上がったが、見応えがあった。この一番で美ノ海は3敗に後退。

若隆景・翠富士戦にも期待していたが、若隆景がうまく裁いた感じがした。

正代・隆の勝がいつの間にか3敗のまま生き残って浮上してきた。

琴櫻は大の里をもものともせず上手投げて征して2敗を堅持。霧島を破った照ノ富士を2差で追う形になった。

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
10勝	照ノ富士				
9勝1敗					
8勝2敗		琴櫻			

横綱が先頭を走り、大関が後に食い付いているという無難な形に納まって来はしたが、終盤の五日間でどんな展開になるのか、期待と心配が交錯する十日目。

●十一日目(いよいよ終盤戦)

若隆景が千代翔馬をきれいな上手出し投げて破って勝ち越し。遠藤は終始低い姿勢を保ち、巧みな腰と膝の使い方金峰山を切返して、7勝4敗まで盛り返してきた。美ノ海・隆の勝も勝ち越し、今場所元気な力士たちがあとひとつで勝ち越しのところに並んできた。

琴櫻は霧島に良いところなくあしらわれてしまい、3敗に後退。ことによると照ノ富士が早いタイミングで優勝を確定する可能性も出てきたのだが……。

結びの一番、横綱は頭を下げて突進してまわしに手がかかったが、大の里の瞬間の巻きかえと突き落として土俵外へ四つん這いで飛び出してしまった。膝に余裕がないにも関わらず不用意に前傾しすぎた上に、まわしに手がかかってぬか喜びしたのがいけなかった。若手の意外に冷静な取り口にしてやられた。琴櫻が敗れて星三つの開きかと心配したが、結局二差のままで11日目を終った。

この表に載っている力士の内の何人かが、残り四日間で照ノ富士に黒星を付けられるだろうか？

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
10勝1敗	照ノ富士				
9勝2敗					
8勝3敗		琴櫻・豊昇龍			隆の勝・美ノ海・若隆景

●十二日目

遠藤が北勝富士を巧みに裁いて勝ち越し、美ノ海は突き押し相撲の武将山を上手い相撲で叩き込んで9勝目を上げた。続く一番は一山本・若隆景戦。予想すらしなかった番狂わせで、一山本が上手投げて勝利。若隆景は9勝目を上げられなかった。

突き押し相撲で、あまりまわしを取っての相撲は取らない玉鷲が、錦富士を吊り出して破ったという珍しい一番。若手同士の対決、平戸海・豪ノ山戦は熱戦を期待したのだが、平戸海が圧勝。

3敗同士の直接対決、琴櫻は豊昇龍の首投げに敗れて一步後退、

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
11勝1敗	照ノ富士				
10勝2敗					
9勝3敗		豊昇龍			隆の勝・美ノ海

照ノ富士は阿炎を難なく下して1敗を維持。3敗は豊昇龍・隆の勝・美ノ海の三力士となった。千秋楽前に優勝が決まる可能性が出てきた。

●十三日目

若隆景が、今場所好調な新小結平戸海を押し出して破った相撲は、若隆景復活を感じさせた。

隆の勝・美ノ海はそれぞれの持ち味を活かした取り口で白星を重ねて3敗を堅持した。

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
12勝1敗	照ノ富士				
10勝3敗					隆の勝・美ノ海

大関豊昇龍が今日から休場になり、横綱を追う3敗の大関が遂になくなってしまった。豊昇龍から不戦勝をいただきたい

た大の里は勝ち越しとなった。

また、横綱照ノ富士は大関貴景勝を一方的な相撲で破って首位を守ったが、対する大関は負け越しとなった。

●十四日目

武将山が突進の押し相撲でベテラン佐田の海を破って幕内で初の勝ち越し。

3敗の美ノ海は大の里の立ち合いからの鋭い前進圧力に攻めまくられて4敗に脱落。

結びの一番、隆の勝は横綱照ノ富士を一気に攻めて寄り切り、今日の優勝決定を阻止した。

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
12勝2敗	照ノ富士				
11勝3敗					隆の勝

この結果、優勝争いの結論は千秋楽に持ち越された。千秋楽の照ノ富士の対戦相手は琴櫻、隆の勝は大の里と発表された。横綱の優勝か、優勝決定戦か。

さてこうなると、三賞の行方はどうなるか、毎場所のように私的な予想をしてみることにした。どちらが優勝するにせよ、殊勲賞=隆の勝、技能賞=美ノ海・若隆景・平戸海のから誰か、敢闘賞=若隆景と出して見た。

●千秋楽

若隆景が低い姿勢で相撲を取り、手を伸ばして北勝富士の脚に添えて渡し込みで11勝目を上げた。

遠藤は、細かく動く翠富士に翻弄されることなく押し出して10勝5敗。両力士とも復活を印象づけた。

4勝10敗同士の明生・豪ノ山戦は見応えがあった。両者とも持ち味を出し切ってぶつかり合い、逃げたり叩いたりすることなく戦った全力戦は何か賞をあげたいような取組だった。最後は後ろ向きにされてしまった明生を豪ノ山が送り倒して結着がついた。

続く平戸海・琴勝峰も充実した取組だった。差し手争いの中で相手の腕をつかんだ平戸海が見事なとったりで勝ち、10勝5敗となった。新小結としては上出来な場所だった。

隆の勝は大の里を一方的な相撲で押し出して結びの一番を待った。

結びの一番、照ノ富士は琴櫻にうまく取られて上手出し投げで敗れ、12勝3敗同士の優勝決定戦となった。

そして優勝決定戦を征した横綱照ノ富士が優勝し、何とかサマになる千秋楽となった。

殊勲賞=大の里、敢闘賞=隆の勝、技能賞=平戸海ということになった。私の印象では、大の里が照ノ富士に土をつけた時点では照ノ富士は二差で独走しており、独走を許さないという結果に持込んだ隆の勝の方が殊勲勝に値するような気がする。

新小結で10勝5敗の好成績をあげた平戸海の技能賞はなるほどと頷くことができるが、「これで大関取りの起点に立った」と言っはしゃいでいるアナウンサーには呆れた。

●むすび(戦い終って……)

冒頭で書いた「今場所の見所」を振り返って見ると、「横綱の去就」は賜杯の行方が示すとおりだが、名古屋の人に言わせれば「往生こいたげな」と言うところかもしれない。

大関陣については、貴景勝が二場所連続負け越しで陥落することになり、特例措置により大関に戻る可能性があった関脇霧島は8勝7敗に終り大関への復帰はならなかった。

来場所も大関の座にいられるのは琴櫻(今場所10勝5敗)と豊昇龍(今場所9勝4敗2休)の二力士ということになり、関脇・小結の五力士は全員が勝ち越した。

前頭筆頭から5枚目までに好成績を上げた力士がいないが、東6枚目で12勝3敗(優勝同点)の隆の勝の処遇が気になる。番付編成会議の結論を見るのが楽しみということにしておこう。

以上